

①高校生からのおすすめ本



<命>～生と死を見つめる～

番号	書名	著者名	出版社名	キーワード	学校名	学年	紹介メッセージ
66	明日もまた生きていこう 十八歳でがん宣告を受けた私	横山 友美佳	マガジンハウス	大切な命	岡山東商業	3	彼女は将来、バレーボールのオリンピック有望選手として注目を浴び、全日本入りした。いざ、レギュラーとして活躍しようとしていた時に、がんを発症してしまう。苦しい闘病生活も、もう一度バレーボールがしたいという一心で、耐えていくが、再起できる体には戻らず、いつしか生きる事が目標になっていた。彼女は「命を捨てるくらいなら私にください」と、命を捨てようとする人に向かっていつも嘆いていた。まだ生きてくても生きられない人がいると。
67	あの日生まれた命	NHKスペシャル『あの日生まれた命』取材班	ポプラ社	命	清心女子	3	日本国民の皆が覚えているであろうあの日(2011年3月11日)。多くの人が犠牲になったあの日、多くの生命が誕生した日でもありました。きっとこの日に生まれてきた赤ちゃんたちは、多くの人に助けられ、小さな命をつなぎとめてもらったでしょう。多くの方が亡くなった日が誕生日ということで素直に喜べない気持ちもあるとつづられています。この日に生まれてきた意味が絶対あるはず。皆さんも自分が生まれた日について調べてみてはいかがでしょうか。
68	鹿の王	上橋 菜穂子	KADOKAWA	命の物語	倉敷商業	3	生きるということとは何か、命とは何かをテーマにした壮大な物語でした。二人の男性が主人公で、章ごとに視点が入れかわるのですが、それぞれの決意や信念、大切なものを守りたいという思いが見事に描かれ読みごたえがありました。登場する生物、医療分野の描写の細部にもリアリティーがあり、作者の深い知識と造詣を感じられる作品です。
69	ツナグ	辻村 深月	新潮社	感動の死者との再会	玉野光南	3	この物語は、死んでしまった人と、生きている人の再会を仲介する死者-ツナグ-という人と、その人のところに行く依頼人や死者との関わりを描いた作品です。依頼人はなぜ死者との再会を望むのか、本当に死者と再会することは幸せなのかなど、とても考えさせられ感動する作品でした。この本は映画化もされているので、本はもちろん、映画もぜひ見てみてください。
70	1リットルの涙 難病と闘い続ける少女亜也の日記	木藤 亜也	幻冬舎	病気	玉野光南	3	この本は、ある少女が難病と闘う実話であり、また、この本はすべて病気にかかった亜也さんの日記になっています。病気になって初めて気づいたこと、どのように病状が変化していくか、本人の日記のためとても近く感じます。病気に苦しみながらも生きる希望を持ち続け、それを支える家族の愛にとっても感動します。読み終えた後は、いつもの生活が違って見えると思います。最後まで前向きに生き、日記を書き続けた亜也さんの1リットルの涙。ぜひ、読んでみてください。
71	命の授業	腰塚 勇人	ダイヤモンド社	あきらめないど根性	倉敷古城池	1	この本は、ある高校教師のお話です。冬に先生仲間ですキーに行った時に、スキーの得意だった腰塚さんが勢いよく雪の上をすべり、着地に失敗し、首から地面に落ちて全身麻痺して、一生車いす生活と医師から言われ、体育教師だった腰塚さんは失望しかけていました。そんな中、ある人たちの支えや思いで、腰塚さんは動かされます。腰塚さんは無事、体を治し、生徒たちのもとに戻れるのでしょうか。皆さんも読んでみてください。
72	神様のカルテ	夏川 草介	小学館	この病院では、奇蹟が起きる。	倉敷商業	2	私は映画を見てから、小説を読んだのですが、映画と小説はやはり感じるものが違いました。小説の方では、一つ一つのセリフや言葉が、私の心をじんわりと温めてくれるような感じがしました。私に人生で大切なことは何か、何か大事なことを忘れていないのではないかと教えてくれるようなそんな作品です。夏目漱石を敬愛し、妻を愛する、悲しむことが苦手な内科医栗原一止がおりなす“奇蹟”をぜひ読んでみてください。あなたにとって“生きる”って何ですか？
73	想像ラジオ	いとう せいこう	河出書房新社	「ラジオ」	倉敷古城池	1	新感覚。こんなにもこの言葉が似合う小説が今までにあったらどうか。DJとリスナー。日常にありふれた関係が死者と生者をつなぐのだ。陽気なDJアークとリスナーとの奇妙な電話中継は、言葉で表してしまうにはもったいないほどの不思議な感情を抱かせる。まるで本当にラジオを聞いているようだ。感傷的な気分にはならない。生について、死について、命について、深く考えることの出来る作品だ。
74	星のかけら	重松 清	新潮社	命・星のかけら	朝日塾中等教育	2	学校や塾でいじめられているユウキは、どんなキツイことでも耐えられるというお守り「星のかけら」の存在を知る。星のかけらを探しに行った夜、ユウキは不思議な女の子ミちゃんに出会って…。皆さんは、あまり深く考えずに「死ね」と口にしたことがありますか？もしその後、相手が本当に死んでしまったら、あなたは一体何を思うでしょうか。この本を通して、もう一度、言葉と命の大切さについて考えてみませんか？